

2015 年度 関西学院大学自己点検・評価
 < C 票 > 第三者評価結果 【人間福祉学部】

教育研究目標 1

1. 6 年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係性 （※ 6 年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3 名	<u>左記を選択した理由：</u> ・ 学力格差是正のための具体的な方策に言及しているため。（評価者 A） ・ 学生の学力向上という目標に向けた多角的な取り組みが具体的に示されています。（評価者 B） ・ 学生の学力向上に向けた取り組みが具体的に示されています。（評価者 C）
「具体的でない」 0 名	<u>左記を選択した理由：</u>
その他気づいた点：	
6 年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された 6 年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取り組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ 全体的に、適切なものとなっていると思われます。（評価者 A） ・ 現状の課題を的確に見極めたうえで、入学制度も含めた多角的な視点から問題解決に向けた取り組みが適切に示されています。（評価者 B） ・ きわめて妥当で適切な内容です。（評価者 C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ 妥当なものであると思われます。（評価者 A） ・ 妥当です。（評価者 B） ・ 評価尺度が未記入です。（評価者 C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<u><評価者からのコメント></u> ・ 適切であると思われます。（評価者 A） ・ 適切です。（評価者 B） ・ 評価尺度の数値が未記入ですが、現状が 2017 年度までつづくことになっています。1 年前倒しにすることを期待します。（評価者 C）

教育研究目標 2

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 (※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか)	
「具体的である」 3名	<p>左記を選択した理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラム関連、資格試験関連のいずれも具体的内容を記述しているため。(評価者A) ・ 専門的かつ実践的な教育の提供という理念が具体的に示されています。(評価者B) ・ 4つの行動計画とあわせてみて、具体的な内容になっています。(評価者C)
「具体的でない」 0名	<p>左記を選択した理由：</p>
<p>その他気づいた点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行動計画との関連で「狙い内容」の記述に具体的な事項を含めることを望みます。(評価者C) 	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<p>目標の内容</p> <p>(設定された6年後のめざす姿(目標)の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取り組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。)</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に、適切なものとなっていると思われます。(評価者A) ・ 「実学の府」を実現するために現行カリキュラムを改訂することは、有効な取り組みです。(評価者B) ・ 目標の内容は、意欲的な取り組み内容です。(評価者C)
<p>評価指標</p> <p>(目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。)</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妥当なものであると思われます。(評価者A) ・ 単一の指標のみではなく多面的な指標をもって評価することが求められます。(評価者B) ・ 卒業時のアンケート調査による結果だけでなく、客観的な指標を検討することを望みます。(評価者C)
<p>目標達成スケジュール</p> <p>(目標達成に向けたスケジュール設定は適切か(長すぎないか、短すぎないか))</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切であると思われます。(評価者A) ・ 妥当です。(評価者B) ・ アンケート調査の実施は、2016年3月卒業生からされることを期待します。(評価者C)

教育研究目標 3

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3名	左記を選択した理由： ・「人間福祉」学の社会的貢献と発信に関する具体的内容となっているため。（評価者A） ・「人間福祉」という学問分野の意義について広く社会に浸透させるとの目的が示されています。（評価者B） ・学生の受け入れ、4年間の達成目標などとの関連が具体的に示されている。（評価者C）
「具体的でない」 0名	左記を選択した理由：
その他気づいた点： ・本学部を第一志望とする学生の安定的確保が目標として掲げられているが、学生は卒業後の進路も考慮して志望学部を考える。目標を達成するには、卒業後の進路についても示す必要がある。（評価者C）	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取り組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<評価者からのコメント> ・全体的に、適切なものとなっていると思われます。（評価者A） ・「人間福祉」の内容と意義を社会に浸透させることは、学部の独自性を発揮するうえで適切な取り組みです（評価者B） ・目標の内容は、妥当である。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<評価者からのコメント> ・妥当なものであると思われます。（評価者A） ・「卒業時」ではなく「入学時」において「第一志望」を尋ねることが適切だと考えられます。さらに、入学時と卒業時での人間福祉学部への評価の変化を測る指標を示すことが望まれます。（評価者B） ・現状把握がまだされていないので、目標の進捗を測る上で、年度毎の目標設定との関連で評価尺度の妥当性は判断できません。（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<評価者からのコメント> ・適切であると思われます。（評価者A） ・適切です。（評価者B） ・アンケート調査は2017年度ではなく、次の卒業生から実施することを望みます。（評価者C）